

古きを訪ねて新しきを知る 1

文化財保護課 224-6097

石原のささら獅子舞

このコーナーは、川越の歴史や文化財に興味を持つ、お手伝いをします。

本格的な農作業を目前に控えた4月。この時期、秋の豊作を祈ったり、夏に多くなる疫病などの災いをはらったりする行事が各地区で行われます。

その中の一つ、今年が本祭りにあたる石原のささら獅子舞。始まりは、慶長十二年(一六〇七)といわれています。その後、寛永十一年(一六三四)に、若狭小浜へ転封となった川越城主酒井忠勝が、雌雄二頭と舞人を伴ったことで一時中断。宝永六年(一七〇九)に復活し、現在に伝えられています。勇壮な舞を演じるのは、先獅子・中獅子・後獅子の三頭と、少年が演じる山の神。笛と竹製のささらの音に合わせた舞には、十二の場面があり、小唄が歌われることもあります。ささらを演奏する四人のささらっこは、花笠をかぶり、四方を固めます。



獅子舞は、17日(土)と18日(日)の二日間、観音寺や本応寺のほか、まちを清めながら巡ります。二日目に舞を演じながら高沢橋を渡る場面がハイライトです。

川越野菜

このコラムでは、川越の農産物や、旬の食材を紹介していきます。

南部地域に広がる畑地では、ほうれん草、小松菜、里芋などの生産が盛んです。

春は、たまねぎが旬を迎える季節。取れたてを出荷する、この時期の「新たまねぎ」



は、みずみずしく、辛みが少ないのが特徴です。薄切りにしてポン酢で食べると、おいしさが引き立ちます。日持ちがしないので、早めに食べ切るのがポイント。農家が庭先などでつるしているたまねぎは、保存用です。高い湿度がとつても苦手なため、風通しの良い場所につるされ、出番を待ちます。

また、春の七草のひとつで、「すずな」とも呼ばれる「かぶ」もこの時期に収穫されます。春のかぶ(写真)は、とても柔らかく、くし切りや輪切りにして、葉も一緒に浅漬けにすると一層おいしく食べられます。



編集後記

どんぐり

春

分の日の早朝。同僚が出場する、パラリンピック・アイススレッジホッケー決勝をテレビ観戦。心の内と部屋の外、春の嵐が音を立てて、吹き荒れていました。観戦後は一変して、穏やかな日差しが降り注ぎ、ぽかぽか気持ちのよい天気に。銀メダルの感激にしばし浸りました。

春は、進学・就職・退職などをきつかけに新しく何かが始まる転機の季節。大きな変化は、天気だけではないようです。小学校では一年生が、体より大きなランドセルを背負い、元気に登校する姿が見られます。ランドセルの黄色いカバーは、安全運転を再確認する、きつかけの合図です。

小江戸川越観光
キャッチフレーズ

時 薫るまち 川越